

溝小だより

<https://mizonobe-kahoku.edumap.jp/>

河北町立溝延小学校
学校通信 No.393
令和8年5月31日

“ふるさとだいすき” 感じる心



5月に入り、緑の濃い季節になりました。学校では、地域や保護者の協力を得ながら、地域を舞台に充実した学習が行われています。

5月18日には、5年生が稲作の学習として、苗の手植えに挑戦しました。

ご指導いただいたのは、本校保護者の今田一平さんです。他にも、5年生保護者の奥津さん、江目さん、鈴木(智)さん、鈴木(小)さん、清野さん、今田さん(代かき5/15)からもご協力いただきました。まず、田植え枠の使い方を習った後、2人1組で田に印を付けました。まっすぐに転がすのが難しく、何度も田植え枠の向きを修正しながら転がし、やっとのことで印を付け終わりました。次に苗の手植えです。しっ

かり植えないと浮いてしまうことを聞いた後、いよいよ田植えに挑戦です。初めは田んぼに足を取られ、植え付けも上手く出来ませんでした。保護者の方からアドバイスをいただき、徐々に上達していきました。「ふるさとの自然」を感じながら、米作りの苦労や魅力を学んだ5年生でした。

5月20日には、1,2年生が生活科の学習として、いちご栽培の見学といちご狩りをさせていただきました。

この日、ご指導いただいたのは、米 COME かほく協同組合(江目一広理事長)の皆様です。

いちご狩りでは、実の摘み取り方を教えていただき、さっそくいちご狩りに挑戦しました。青々とした葉の間に、真っ赤に実った「おとめ心」を見つけた子ども達は、焦る気持ちを落ち着かせながら、枝を引っ張らないように丁寧に摘み取っていました。そのおいしさに、「世界一おいしい。」と大喜び。生産者さんの「思い」が詰まった「おとめ心」のおいしさに、「ふるさとの恵み」を感じ取った子ども達でした。



“やさしく” 「みんなで」を形に



5月30日の運動会に向けて、本格的な取り組みが始まっています。5月20日には、全校種目「はらはら ドキドキ みんなでゴールを目指せ！」の練習をしました。

二人一組でゴールを目指しますが、高学年が低学年をサポートするのがポイントです。実際に、高学年の児童が低学年のスピードに合わせて走ったり、手をつないで平均台を渡ったりする姿がありました。

「みんなが楽しくなければ運動会じゃない！」
今年のリーダー達の「思い」が形に現れた瞬間でした。

本校ホームページへ
こちらからもどうぞ

